本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3―7―28　宝幸西新宿ビル
電話03（343）1846代表
振替口座　東京　172320
〒543 支局　大阪市天王寺区勝山2―202
電話06（771）7415

全国婦人新聞

ご購読料
1年　3,800円
（郵送料とも）
現金・切手・振替で前納
（月3回発行）
10日・20日・30日

優
ご家族みんなで
限度いっぱいまで
非課税の特典
㊐は有利なものから…
ダイワの「定期・信託」へ
あなたと明日を
大和銀行

第7回日本婦人問題会議

あらゆる分野への男女の共同参加

共に個性と能力を生かすために―

五月二十八日、「第七回日本婦人問題会議」（主催・労働省）が、東京・大手町のサンケイ会館で開かれた。同会議は、国連婦人の一〇年スタートと同時に始められ、毎年、日本全国からの参加者を募って行われている。今年のテーマは「あらゆる分野への男女の共同参加――共に個性と能力を生かすために―」。

浜松婦人懇話会からは「婦人の自立と社会参加を目指して」、山形県婦人問題研究会からは「農業経営への婦人の主体的参加を進める――三年間の研究活動から得たもの――」、国立医療センターに働く看護婦の夫の会から「看護婦の夫として――家庭　仕事　男女の自立とは―」と題して、活動事例の発表。全体討論では、経済評論家の高原須美子、お茶の水女子大学教授の湯沢雍彦、日本経済新聞記者・藤原房子各氏を講師に、その他、池辺忠男（会社社長）、河内久男（父親グループ）、ヤンソン由実子（評論家）各氏を意見発表者に行われた。

従来、婦人問題というと婦人の自立ばかりが叫ばれていたが、今回の会議ではこれが一転、男性にも自立の必要がある――家事からの自立をすべき、そしてこれが、男女ともに社会に参加し、本来の男女平等への第一歩を踏みだすキッカケになることが示唆された。

特にことしは男性の自立が表面に出た

男が自立するとは

共に体験しつつ道拓こう

サビを落とし能力の復活を

浜松婦人懇話会の佐藤和子さんは、専業主婦の女性が子育て後、社会に出ようとしても、社会的な経験の場から遠ざかっていると、かつての能力はさびつき役に立たなくなっている。これを復活させようと〝トレーニング・センター〟を設置。

三〇歳後半～四〇歳代の主婦を対象に〝みつけよう！私たちの可能性、助けよう！これからの人生〟をスローガンにスタートさせた。

「主婦のリハビリですか」と地元の新聞記者に言われたこともあったが、基礎知識のための学習コース、生活技術習得コースの二本立で、しかも、その辺にあるカルチャー・センター的なものではないようにと頭をひねった。

低料金の講習費、実質的な能力が身につくまで――英会話コースでは、英検二級合格を目標にする――能力開発に努めた。

斉藤敏勝さん

徳永幾久さん

佐藤和子さん

その結果、カウンセラー養成、文章コースは三年間連続開催。カウンセラー・コースは、七月から開設予定になっている「婦人のための婦人による婦人の相談室」（仮称）の母体にもなっている。また文章コースの参加者を中心に「婦人のための情報サービス誌」（仮称）も発行する予定だ。

佐藤さんたちは、こうした学習活動のほか、地域社会との連帯を持つため、昭和五十五年から「国連婦人の十年浜松婦人会議」を開催している。

懇話会での活動の中から佐藤さんは「婦人問題は男の問題でもある。男の人をも巻き込みながら、一人一人の女の力が高まって互いにサポートし合うことが大きな力になっているのではないか」と報告した。

健全な流通の橋渡しの役も

山形県婦人問題研究会は、婦人問題に対する正しい認識と共通理解を深め、生活の実態の中から婦人問題の課題を婦人自身の手で捉え調査研究、客観性のある資料で行政に提言できる研究会にしようというもの。家庭の主婦、有職婦人、農村婦人など、いろいろな婦人層一一グループ約一二〇名で構成されている。

この中から発表者の徳永幾久さんは、農村婦人グループによる三年間の研究活動について報告した。

ここで明らかになったことは、農家の婦人たちの労働条件が極端に悪いこと。

農業も担い、家庭経営も担当している婦人たちの関心事は「農業所得だけでは生活できないし「次代の農業者不足」ということ。だが現実には労働提供のみで、経営には参加していない。

また、三〇～四〇歳代の婦人の八〇％が農繁期に八時間以上（最高十六時間二〇分）農作業に従事した上、家事も……。

農機具の操作を行っている人は三〇歳代では六〇％、四〇歳代で七四％。年間平均でも四〇代で三七日、三〇代で三五日。

こうしたことから農家婦人の健康管理のための話し合い、経営にも参画し豊かなくらしづくりをと呼びかけた。

また、消費者と生産者の橋渡し的存在となるための研究も重ねている。例えば、キュウリにしても、消費者は曲がったものでもいいのにと言うが、生産者側は、まっすぐなものでないと流通に乗れない――売り物にならないといった両者の立場に違いがあること、また、農業経営の安定のためには両者の理解と連携が必要であることを確認している。

これらのことを踏まえ徳永さんは「男女相互の自立を基盤に努力し、各々の役割と責任を果たすことが、一人一人がその分野で前進していくことではないか」と語った。

藤原房子さん

湯沢雍彦さん

高原須美子さん

妻のリード で夫として自立

国立医療センターに働く看護婦の夫の会の斉藤敏勝さんは、看護婦の夫として、自分がどのように自立したかを報告。男性は、経済的には自立していても家事に関しては女性に従属している。このことは、経済的に自立していない女性と同じことがよくわかったと語った。

斉藤さんは、現在の妻と仕事（看護婦）をやめないことを条件に結婚。妻が夜勤の時でも家事一切を妻が引き受けるのが当然と思っていた。

だが、子どもが生れると状況は一転。いやでも家事・育児に直面せざるを得なくなった。

だが、家事も育児もどのようにやっていいかわからないので、家事育児は女性がやるものという固定観念があって抵抗があった。

「洗濯物を干す時も近隣の目をはばかり、保育園へおぶって子どもを連れていくにも下を向いて歩いた」そうだ。

このころ、斉藤さんは妻の書き置きに従って食事をつくれるようになり（下ごしらえまでしてあった）、何とか食べられるものを作れる自信がついたころ、今日は忙しいので、作れませんでしたという書き置き。洗濯にしても、やっと自分の分と子どものものは洗って干せるようになったところへ、妻の洗い物が、洗濯機の中に入れてあった。それをよけて干した夫に「あなたって冷たい人ネ」の一言。

斉藤さんの場合、奥さんの忍耐強いトレーニングが、斉藤さんの自立を助けたとも言える。

これら自分の体験から斉藤さんは「夫の会での活動や家事体験は、男が生活面でいかに自立していないかを感じさせられた。

これからは、女性は働いて経済的自立をし、夫も家事をして女性から自立すべき。特に女性の強い意志で男に家事をやらせるようにするべきだと結んだ。

女性の能力見直し

家事を男の必須科目に

これらの体験発表から全体討論では、男の自立について論議され、司会の高原須美子さんも「最近、とみに男性の自立が取沙汰されている。これは、女性の社会参加に伴い、家事をやらざるを得なくなった、離婚の時困るのは家事のできない男、定年後が長くなった男性のライフサイクルの変化などがその理由」と前置きし、男女ともに歩み寄るの形で、社会にも家庭にも参加するようになれば、と提言した。

一方、藤原房子さんは、男も女も現状では部分的にしか生きていないことを指摘。

「PTAでも自治会でも、会長は男。しかし実務は女性が多い。女性の能力の発揮を社会も女性自身も期待していない傾向がある」とし、女性の能力の見直しが必要であること。また、女性自身も、子育て後、就職することばかりでなく、学習や創造的活動で自由にやりたいことをやり、その中から、職業につながる道をみつけるようにと語った。

一方、湯沢雍彦さんは、女性の政策決定への参加が余りにも少いと述べ、特に地方議会などでは、女性候補者の足をひっぱる傾向があること――つまり女性が積極的に参加しようという意欲にかけるのではないか、と。

さらに意見発表者の一人池辺忠男さんは「せっかく課長昇任試験の受験資格を、パートも正社員も男も女も同等にしたのに一人の受験者もなく、やむを得ず優秀な女性に勤めたところ〝課長になると夫にしかられる〟と言われた」と語った。

会場からも、さまざまな意見が出されたが、若い男子大学院生が「男女平等の理想像はかなり遠い」と発言。

これに対して、ヤンソン由実子さんが「スウェーデンでは、〝婦人問題〟は死語。日本でも女の経済的自立、男の家事の自立のコンセンサスづくりを」とスウェーデンでは職場で男女平等が制度的に確立していることなどを紹介した。

女性の意識は向上し、男女平等の実現も真近いかに思える会議だったが、現実には、社会通念など男女差別の厚い力がある。

これを取りのぞくためには、各家庭生活の中からの対等な夫婦関係が必要ではなかろうか。

この点をさらに認識させられる討論が自立った。

羽が生えたように

新宿リサイクルバザー　30分で予約済み

恒例の新宿区のリサイクルバザーが、このほど、新宿区立体育館で行われた。会場を埋めつくした約一万点の古家具、電気器具、衣類。そしてまっさらの不用品が見る間に売れて行く。あいにくの土砂降りの雨だったが、悪天候ものかわ、押しかけた人などで、定刻三十分後には、めぼしい品はほとんど予約済み――。

このリサイクルバザーは、今年で八回目。〝使い捨て文化〟への反省がたかまり、一方ゴミ公害が叫ばれ出した昭和五十年、少しでもゴミをへらし、使えるものは大切に使ってもらいたいということから、区の環境課が中心となって始まった。

区婦人団体連絡協議会、区消費者の会、区新生活運動連絡協議会の三つの婦人団体が協力、清掃事務所も粗大ゴミの中で質のいいものを取っておくなど、区ぐるみの態勢で、年一回行う大がかりなもの。この日も、約百三十五万円の売り上げがあり、新宿区福祉協議会に寄付された。

いまでは待ち兼ねる常連も多く、水曜の朝にこの人出……

八回目とあって、すっかりおなじみになったこのバザー。〝もの を大切に…〟という気風が出て来て、安く出モノが買えるこのバザーの常連となり、楽しみに待っている人もあり〝定着した〟といえるのだが、「倹約精神が身についたのが、一般的な不景気のためか、近ごろ出品がぐっと減りまして……。新品同様の掘り出しものもひところよりは少なくなっています。痛しかゆしですな…」とは担当の新宿区環境課の話。

障害者青年のフェスティバル

ことしは長野で

障害を持つ人たちに取って、結婚問題は深刻。そうした悩みについてのアドバイスや、友達づくり、情報交換の場として出発した「百万人の広場」（丸山信也会長）が、スケールをひろげ「障害青年ふれ合いのフェスティバル」を、長野県軽井沢町町営キャンプ場で開く。

昨年の第一回は、長野県美ケ原で開かれ、車イスの人たちや重度障害の人たちも、海抜二〇〇〇㍍のみの山小屋泊りという条件にもかかわらず多数参加。障害者青年だけでも一〇〇名をこえる盛上がり。

出席した人たち同志の友情交換から文通、結婚にゴールインする組も出て来た。

予想以上の結果と、障害を持つ青年たちの要望に応えての第二回目は、昨年より二泊多い、二泊三日のキャンプを企画。

障害青年の参加はもちろんのこと、一般のボランティア、また体験参加を呼びかけている。

日時・昭和五十七年七月二十四・二十五・二十六日。

場所・長野県軽井沢町町営キャンプ場（☎〇二六七四（二）七三八八）軽井沢駅下車、草軽バス十五分・唐松沢下車。

費用・七〇〇〇円（交通費は別）、一泊四五〇〇円、日帰りは三〇〇円。

交通・東京からマイクロバスが出る。その他は自由。

問合せ・東京都渋谷区広尾五―七―一―一三〇九　☎〇三（四七三）一二二一　百万人の広場・丸山信也まで。

九回目の佐渡自然学園

食生活研究会（浅井まり子会長）主催の「佐渡自然学園」が、今年も、下記の日程で行われる。環境汚染のつづく中、石油や朝にどっぷりつかっている都会の子供たちに「夏休みのひとときを、自然に囲まれた生活を体験させたいという意図で生まれたもので、今年で九回目。地元の新潟県佐渡郡畑野町が後援。

◇日程は①七月二七日～八月一日②八月三日～八日③八月一七日～二三日の三回、各回定員三十人。原則として小学生以上で保護者同伴。グループ参加は子ども三～四人に保護者一人くらい。費用は中学生以上大人二七〇〇〇円、小学生二四六〇〇円。汚染されない自然が残っている畑野町（島のほぼ中央）を中心に民宿、ハイキング、山の廃校での宿泊、水泳、地元子ども会との交流、工作（竹細工つくり）といった計画で、マキづくり、ごはんたき、野菜とりなど、自分たちで仕事をしながら、都会とはちがった生活を体験させる。

申込みは六月末まで新潟県佐渡郡畑野町役場　総務課（細野孝太郎）あて、住所、氏名、年齢（学年）、電話番号明記のうえ、現金封筒で前金二千円を入れ申し込む（全額納入も可）。なお費用は宿泊、車代等の費用で佐渡へ来るまでの費用は含まれない。問合せは▽0462・53・3272　雪入チヨ▽03・331・2191　東京グリーンプラザ内　自然学園係▽02596・6・2303　浅井まり子▽02596・6・3111　畑野町役場

たべもの知識の交通整理

東京・中野区消費センターでは、消費者講座・暮らしと情報シリーズI「たべもの知識の交通整理」を四回にわたって開く。

六月二十一日、食生活と情報」情報過多時代に溺れないために―東京文化短期大学教授・沢野勉。

六月二十三日「テレビと食卓」料理番組を作る立場からのアドバイザーNHK家庭部チーフ・ディレクター・長山節子。

六月二十四日「安心できる食生活のために」食品安全基本法の提言―弁護士・神山美智子。

六月二十五日「やせたい太りたい」誤った食品栄養知識にまどわされていませんか―学習院女子短期大学教授・岡啓次郎。

会場・中野区消費者センター三階大会議室（☎三八九―一一九一）六月十五日から先着順一〇〇名受付け。

婦人手帳

★★★　地球の各地で硝煙の臭いが立ちこめる険悪な日々が続いている中で、これはほっとする話題だった。ウズラの卵をブラジャーの内側に抱いてふ化させたというのである。横浜市の動物好きの主婦・木佐森千砂子さんが飼ったウズラの雌が卵を生んだ。だが抱こうとしないので、「自分の体温でふ化させよう」と考え、最も安全なブラジャーの内側に抱いた。何回か失敗したあと、ティッシュペーパーで包むという作戦を編み出してついに成功。抱いてから二十三日目に「コツコツ」と中から卵を突っつく音がした。その後も次々、もう六羽もかえっている。

★★★　女性の母性本能をくすぐるのであろうか。あの美人キャスター・田丸美寿々さんが試みていると公表されたこともあって、〝ブラジャーふ化〟の希望が次々なのだという。その一人である週刊誌の女性記者によると「半信半疑だったが入浴時や就寝時に神経を使っているうちに一つの生命を抱いているのだという崇高な気分になってきた。私も〝母になる〟……」なのだそうで、ブラジャーをするなら女性のみが味わえる感激とか。専門的には〝どても考えられない〟こともいうが、現に考えられないことが起きているのだから〝母性〟なるものの神秘を讃えるべきだろう。

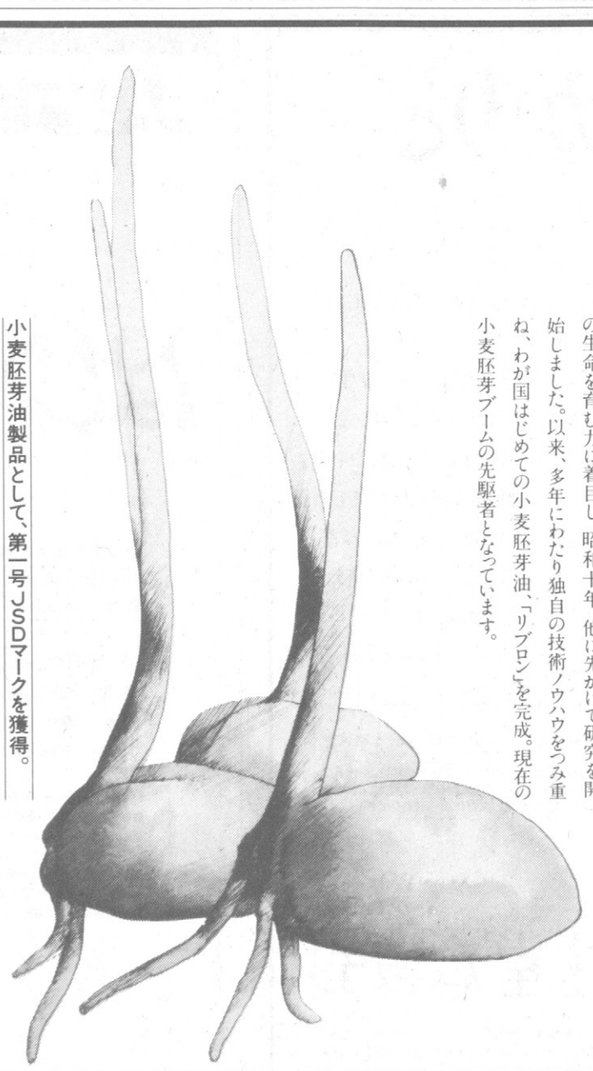
★★★　男だったら出来そうもないことはまずやらない。最初から卵を抱くなどという発想は生れまい。母性なればこそである。それに女性の根気強さである。とにかく、十ヵ月もおなかに子供を入れて、生れたあとも思うに任せぬことの多い中で育てあげるという長丁場をしのいだ体験、あるいは性向を持っている。少しくらいのことにはへコたれない。あきらめたりしないで。ブラジャーうずらはその女性の美徳を示した話題といえないか。折しもニューヨークでは、第二回国連軍縮特別総会が開かれた。日本の女性たちも平和の訴えに大挙参加した。平和は男女に関係ない。が、辛棒強く〝平和の卵〟を胸に抱いて、専門的にはむつかしいとみえる〝核の廃絶〟というヒナをかえすためには、母性愛とその根気が大きく働くことを確信する。

日清製粉

発芽のための
無限のエネルギーを秘めている、
小麦の胚芽。

小麦の胚芽にかくされた生命の神秘
ひろびろとした麦畑の中の一本の小麦。豊かな実りを結んだ穂先のひとつぶ。そのまた小さな部分、発芽のための成長のエッセンスをたくわえた小麦胚芽…。そこには、私たちの健康のカギを握るビタミンEやリノール酸など、多くの栄養成分がぎっしりつまっています。ネズミが小麦をかじったあとを調べてみたら、胚芽部分だけがきれいになくなっていた、という事実があるくらいです。ネズミはきっと、本能で、胚芽のすばらしい秘密を知っていたのですね。

自然の恵みがいきている、リブロン小麦胚芽油。
すばらしい自然の恵みを秘めた小麦胚芽。日清製粉では、その生命を育む力に着目し、昭和十年、他に先がけて研究を開始しました。以来、多年にわたり独自の技術ノウハウをつみ重ね、わが国はじめての小麦胚芽油、「リブロン」を完成。現在の小麦胚芽ブームの先駆者となっています。



小麦胚芽油製品として、第一号JSDマークを獲得。
JSDマークは、㈳日本栄養食品協会が厚生省の指導のもとに、表示栄養成分、品質が適正である食品につけている安心の印です。天然のビタミンEとリノール酸をバランスよくたっぷり含んだ、リブロン小麦胚芽油は、第一号JSDマークを獲得しました。小麦粉メーカーならではの、良質の小麦から純度の高い胚芽油をとり出す技術と、一貫した生産体制、医薬品なみの徹底した品質管理で、多くの方からご支持をいただいています。ご家族の健康管理に、〝からだ〟に合わせて適量をお摂りください。

「日清製粉のリブロン小麦胚芽油を」と
ご指名なさる方が、ふえています。

リブロン
小麦胚芽油
Wheat germ oil

●お問い合わせは――日清製粉株式会社 事業室
〒103東京都中央区日本橋小網町19-12☎(03)660-3333(ダイヤルイン)

●「リブロン小麦胚芽油」は、有名百貨店の健康食品コーナーなどでお買い求めください。なお、お近くでお求めになれない場合は、通信販売も行っていますので、ハガキで下記までお申込みください。
日清製粉株式会社 事業室 〒103 東京都中央区日本橋小網町19番12号 TEL 03(660)3333

らんざん便り

多彩な行事
開館5周年迎え

国立婦人教育会館が婦人教育や家庭教育に関心のある人たちの実践的な研修、交流、情報センターを進めるための施設として、昭和52年10月に事業開始してから満5年を迎えようとしています。この間、利用団体が7,300団体、利用者も延べ46万人を超え、出会いから、学習へと輪が拡がっています。

そこで11月に開館5周年記念句開を設け、次の事業を実施する予定で、全国から参加・募集を呼びかけています。

5周年記念論文募集

◇主題　婦人教育の充実をめざして――学習と実践の輪を――

◇内容及び題目　主題に即して自由とし、研究、実践、意見など、婦人教育の充実・発展に寄与するものであること。

◇　応募規定

▽応募資格
婦人教育研究者及び婦人教育に関心のある個人又はグループ

▽原稿の制限
４００字詰原稿用紙（Ｂ４横書き）20～30枚（図表別）未発表のものに限る。

▽留意事項
原稿には、論文の題目、氏名、、生年月日、連絡先住所、電話番号、職業又は所属団体等を表紙に必ず記載すること。

▽締切日
昭和57年8月31日（必着）

◇　選考方法　選考委員会で応募原稿を審査の上数点を優秀賞として決定する。

◇　優秀賞発表　優秀賞の論文は10月下旬本人宛に決定通知する。1月17日の発表会（公開）では、本人から発表し、会館発行の「婦人教育情報」時集号（昭和58年3月15日発行第7号）に掲載し、謝金を進呈。優秀賞には賞状を贈る。

◇　選考委員　（７名）

◇国立婦人教育会館運営委員会会長　選考委員長　斉藤　正

▽東京大学教授　中根千枝

▽婦人問題企画推進本部参与　人見康子

▽毎日新聞社編集委員　増田れい子

▽立教大学教授　窪　俊司

▽文部省社会教育局長　河野　哲

▽国立婦人教育会館長　樋口陽子

◇　参加グループ・人数
○25～30グループで1グループ　20名以内、計300名。発表希望が多い場合は、地域や内容等を勘案して選考し、参加グループを決定する。選考結果は7月末日までに通知する。

◇　所要経費　参加費無料。発表に必要な経費は、グループ（又は発表者）の負担。なお、旅費、宿泊費は参加者負担とする。

◇　発表内容
▽活動報告（団体、学級、グループ等）
▽学習事例発表
▽実践発表（コーラス、民謡、フォークダンス、茶道、華道等）
▽グループ紹介
発表時間は1グループ　20分以内。
受付は57年5月25日(木)から7月10日(土)まで。

※申込み及び問い合わせは国立婦人教育会館事業課

公開講座「女性学講座」

女性自身が、自主的に生きていくための姿勢や、男女平等の達成のための手がかりを得る機会として「女性学講座」を開設しています。今年度は、3年次として、特に女の役割、男の役割はどのようにつくられるかを、国際比較により考察し、これをもとに、性別役割分業観の見直しを行い今後の方向を探ることにしています。

◇　明日・期間
○8月27日(金)～29日　2泊3日

◇　主題　女の役割、男の役割――国際比較の視点からの見直し――

◇　内容、講師
▽子どもの性祭役割の形成　秋山さと子（お茶の水女子大学講師）
▽性役割の比較文化
青木やよい　（評論家）
▽マスコミと性別役割
井上輝子　（和光大学助教授）
▽世界で女性学は
藤枝澪子　（京都精華大学教授）
▽女性学の課題――シンポジウム――
出席者＝国際女性学会、日本女性学会、日本女性学研究会、女性学研究会。

◇　参加者
女性学に関心のある成人男女　120名
申込みは住宅はがきに住所、氏名、性別、年齢職業、電話番号を記入して7月17日(土)まで。

国立婦人報告会館事業課宛
埼玉県比企郡鳩山町宮名728
〒355－02　☎　0493－62－6711

婦人学習活動交流発表会

（開館5周年記念女性フェスティバル）
○趣旨　開館5周年を記念して、会館利用者を中心に日頃の学習活動や実践の成果を発表する機会を提供するとともに相互の交流を行う。
◇　期日
昭和57年11月19日(金)～20日(土)　1泊2日
◇　参加者　「会館を利用した婦人団体、婦人学級、婦人グループ等で日頃の成果の発表を希望するグループ（又は代表者）で2日間の全日程出席できる人。
▽都道府県・指定都市教育委員会の推せんする婦人グループ等（又は代表者）で日頃の成果を発表するグループ（又は代表者）で2日間の全日程、出席できる人。
◇　参加グループ・人数
○25～30グループで1グループ　20名以内、計300名。発表希望が多い場合は、地域や内容等を勘案して選考し、参加グループを決定する。選考結果は7月末日までに通知する。
◇　所要経費　参加費無料。発表に必要な経費は、グループ（又は発表者）の負担。なお、旅費、宿泊費は参加者負担とする。
◇　発表内容
▽活動報告（団体、学級、グループ等）
▽学習事例発表
▽実践発表（コーラス、民謡、フォークダンス、茶道、華道等）
▽グループ紹介
発表時間は1グループ　20分以内。
受付は57年5月25日(木)から7月10日(土)まで。

※申込み及び問い合わせは国立婦人教育会館事業課

公開講座「女性学講座」

女性自身が、自主的に生きていくための姿勢や、男女平等の達成のための手がかりを得る機会として「女性学講座」を開設しています。今年度は、3年次として、特に女の役割、男の役割はどのようにつくられるかを、国際比較により考察し、これをもとに、性別役割分業観の見直しを行い今後の方向を探ることにしています。

◇　明日・期間
○8月27日(金)～29日　2泊3日

◇　主題　女の役割、男の役割――国際比較の視点からの見直し――

◇　内容、講師
▽子どもの性祭役割の形成　秋山さと子（お茶の水女子大学講師）
▽性役割の比較文化
青木やよい　（評論家）
▽マスコミと性別役割
井上輝子　（和光大学助教授）
▽世界で女性学は
藤枝澪子　（京都精華大学教授）
▽女性学の課題――シンポジウム――
出席者＝国際女性学会、日本女性学会、日本女性学研究会、女性学研究会。

◇　参加者
女性学に関心のある成人男女　120名
申込みは住宅はがきに住所、氏名、性別、年齢職業、電話番号を記入して7月17日(土)まで。

国立婦人報告会館事業課宛
埼玉県比企郡鳩山町宮名728
〒355－02　☎　0493－62－6711

「アンネの日記」への旅
黒川万千代著

『アンネの日記』への旅

黒川万千代著

んぽ

日記の背後にあるもの
“戦争告発”の書として

さいごに、民族差別のことがあります。何度かひどいことがあり、同時期に、インドネシアの人たちが、ユダヤ人に対して、ものすごい迫害をしたのです。ユダヤ人の人間性を認めようとしないアンネの日記に、ものすごい迫害をしたのです。

アンネの日記を、日本語に翻訳された方の、ご苦労は、ご存知のとおりです。ご存知のとおり、アンネは、ユダヤ人の家に生まれ、広島や長崎と同じ年に生まれ、広島や長崎、戦争のことを、感じとる感覚を持っていた。一九二七年、アンネは、ドイツ、フランクフルトに生まれ、ユダヤ人の家に生まれ、ヒトラーの、ユダヤ人迫害を感じとる感覚を持っていた。

アンネは、ヒトラーの、ユダヤ人迫害を、同じ年に生まれ、広島や長崎、戦争のことを

情報第一弾　㈱中埜酢店大阪支店

結成30周年を祝う

生野区 母と子の共励会　福島区

制度の上では前進

その歩みの上に新しい明日

母と子の共励会結成三十周年記念大会が各地区で次々開かれているが、五月は、生野区と福島区でそれぞれ三十周年を祝った。

この三年の間には自立を誓いながら、人には言えない辛いことも母子家庭の人たちにはあったに違いないが、制度的にはかなり前進した。昭和三十九年には待望の「母子年金、母子福祉貸金、児童福祉手当等の道が開れ、さらに一昨年には「母子家庭医療費助成制度」この四月には「母子福祉法」が「母子及び寡婦福祉法」と改められたことなどは特筆されるべきことで、三十周年を祝う各会場では、各会長、来賓ともこうした歩みをふりかえり、さらに手を取り合って、新しく豊かに生活を切り開いて行こうと呼びかけていた。

生野区母と子の共励会（二宮吉野会長）

五月二十三日、生野区勝山北三丁目の生野区センターホールで。

黙祷、秩父宮妃殿下御歌斉唱に続いて二宮吉野会長が「本会結成当時は戦後間もない社会混乱の中で、頼りとする夫を失った私達にとって、立場を同じする会員相互の暖かい励ましは、なにものにもかえがたい精神的な支えでありました。

その間制度も改善され、会独自の衣装貸出し事業や、着物着付け講習会の事業なども、皆様の好評を得て軌道にのりました。いま会員の皆様と共に、母子・寡婦福祉の向上に、更に努力することをお誓いいたします」とあいさつ。

続いて山崎仙松生野区長の激励の言葉と行政努力を約束する挨拶があり、会報告と永年勤続表彰、事業部功労者表彰、優良母子家庭の母表彰が続いた。

大島靖大阪市長、大林志栄大阪母と子の共励会会長、若林府会議員代表、森野市会議員代表、さらに区内各種団体代表として三浦地域振興会長の祝辞が相次いだ。次に受彰者代表のお礼の言葉を横田喜代子理事が述べ、会場いっぱいの拍手のうちに、お祝いの花束が山崎区長と二宮会長に贈呈された。最後に全員起立、「生きぬく白百合」を斉唱し、森重八代理事の閉会の挨拶で第一部は終了した。

第二部は食事をとりながら演芸を楽しんだ。

福島区母と子の共励会（下東ナラエ会長）

五月二十六日(水)午後二時から福島区吉野町三丁目の福島区役所付設体育会館ホールで。

恒例のセレモニーのあと、下東会長が次のようにあいさつ。「『昭和五十五年十二月に『母子クラブ』が結成されました。若いお母さん方に加わって頂き、より一層活力のあるものにしていくとともに、相互協力の輪をさらに大きくして行きたい所存でございます」続いて上野政治福島区長は「苦労に立ち向う母の姿を見て大きなった子供達の多くが今日の我が国の繁栄を支えている人達であると考えます。苦難の中でこそ人への思いやりが育つものと思うのです。近年、社会経済の情態が、本会発足当時から大きく変化し、家庭生活の面でも、核家族化や人間疎外の傾向が進んでおります。今こそ本会のその時宜にかなった活動が切に望まれるところであります」とあいさつ。続いて下東会長と、上野区長から大阪福島ライオンズクラブ会長と、クラレ共栄株式会社代表に感謝状が贈呈され、また協力会員に表彰状が贈呈される。優良母子家庭の母に会長と区長より表彰状と記念品が贈られ、これに対して受彰者からお礼の言葉が述べられた。

このあと来賓の各氏、区内選出の市、府会議員を代表し塩田市会議員や増田地域振興会会長の祝辞が続き、下東会長に浜野春子福島区地域婦人団体協議会会長からお祝いの花束が贈呈された。第二部はお楽しみの「福引」と、たっぷり出席者を楽しませた半日だった。

福島区の大会で、お祝いの花束贈呈

生野区大会で秩父宮妃御歌斉唱

●サワー漬け

穀物酢・米酢・特濃酢には、塩を少なく、酢を加えて冷蔵庫で漬けこむ新しいタイプのお漬物。いろいろな根菜を、サラダ感覚で召し上がっていただける。さっぱりとおいしい減塩漬物です。お食事、おつまみ、お茶づけにどうぞ。

●材料（きゅうり2本・大根300g、にんじん30g を拍子木切り又は乱切りに）

●調味液は酢四〇cc・花かつお少々・しょうゆ20cc・塩小さじ1・砂糖大さじ1・水200ccを空びんに材料が全部ひたるように入れ、フタをして冷蔵庫に入れる。

▽半日～四日後位までが食べ頃。

▽調味料を変えれば、和風、中華風など、お好みのタイプが出来る。（にんにく、しょうが、七味、ゴマ油など）

▽材料も、セロリ、キャベツ、玉ねぎ、かぶなどで工夫を。

▽容器もタッパー、コーヒー空ビンなどいろいろ。

地域の団結で前進

大阪市地婦協 57年度総会　退任理事に記念品

大阪市地域婦人団体協議会（山根隆子会長、会員十七万名）の昭和五十七年度総会は五月二十八日午後一時半から天王寺区上汐町五丁目の市立婦人会館ホールで開催された。

最初に山根会長から、「生活環境の変化、特に高齢化社会に対応するために、共に学習しなければならない。それには男性の理解と協力も必要であり、地域の密切な連絡がいっそう必要になる」と会員の結束を呼びかけるあいさつがあり、続いて大阪市教育委員会の八木社会教育長が次のようにあいさつした。

「社会教育の様々の部会で常に会員の皆様のご尽力を賜わっておる訳でございまして、教育委員会としましてもその点、心から感謝をいたしております。国連婦人の一〇年が丁度後半期に入ってまいりました。平等・発展・平和を理念といたしまして、婦人の地位の向上、社会的な参加ということを実現するために皆様方が力を合せて、これからの担当をして頂く訳でございますが、この運動はご存知のように世界的に大きな流れとなっておることも確かでございます。しかし実際の地域活動は理想通りに進んでいるとは必ずしも申せません。国のレベルでは国内行動計画、大阪市でも婦人問題には色々な目標なり課題を掲げていますが、それを地域なり、或いは家庭で、芽をふかせ、或いは花を咲かせて行くということが求められるわけです。もちろん我々行政といたしましても、財政的にも非常に厳しうございます。なかなか思うようには行かないというのが実際でございますが、出来得るだけ誠意をもって望みたいと考えていますので協力をお願い致します」

また坂本宗子婦人教育課長も市婦協の長年にわたる活動について称讃と今後を期待するとのあいさつを述べた。

このあと中枝郷子、加土志子、岡村美起江、式井俊子の四名の退任理事に山根会長から記念品が贈呈された。

退任理事を代表して山根会長から記念品を受ける中野前理事

会則一部変更 事業も承認

式典はこれで終了し、いったん休憩の後、まず昭和五十六年の事業報告、そして決算報告、監査報告がなされ拍手で承認された。続いて「婦人大阪」機関紙の決算報告などに続き、山根会長から会則の一部変更が報告された。

続いて昭和五十七年度事業計画案同予算案を異議なく承認、総会の幕を閉じた。

～～～